

会派視察報告書

政友クラブ
代表:山本 みゆき
二條 孝夫
大竹 真千子
中村 直人
西澤 和保

期間:令和7年1月29日(水)から30日(木)まで(2日間)

査察地及び視察事項

- 長野県須坂市:賑わい創出拠点やまじゅう(創業支援、起業後の経営支援、チャレンジショップの管理運営、交流拠点の運営)、創業・起業支援に関するワンストップ交流拠点
- 長野県小諸市:①小諸市のMaaS(Mobility as a Service)の社会実験
②高野不動産のおしゃれ田舎プロジェクトについて
- 道の駅・八千穂高原、道の駅 ヘルシーテラス佐久南

長野県須坂市:賑わい創出拠点やまじゅう



地域活性化のための交流拠点。この施設は、地域での起業や開業を目指す方々を支援するために設置される。地域の伝統的建造物を活用しており、地域の魅力を引き出しながら新たな挑戦を支援する場として注目されている。

- 目的: 地域の賑わいを創出し、起業や開業を目指す方々をサポートすること。
- 提供サービス: 飲食店やカフェ、雑貨店などの開業を目指す方向けに、レンタルキッチンや店舗スペースを提供。また、経営アドバイザーによる運営サポートや、創業支援セミナー

の開催も行っている。

- 施設内容: 飲食スペース、物販スペース、交流スペースなどがあり、将来的な開業に向けたテスト出店や地域交流の場として利用可能。
- 営業時間: 通常は 10:00~17:00 だが、利用目的に応じて柔軟に対応可能。
- 利用料金: 店舗利用は 1 日 1,000 円~2,000 円、月額 20,000 円~40,000 円など、用途に応じた料金設定あり。



《 所感 》

(山本 みゆき)

須坂市 社会共創部文化スポーツ課の寺沢隆宏課長、賑わい創出拠点やまじゅう統括責任者・経営アドバイザーの君島登茂樹氏に「賑わい創出拠点やまじゅう」の成り立ちと運営について伺いました。「賑わい創出拠点やまじゅう」は伝統的建造物が集まる町並み(重要伝統的建造物群保存地区)を活用し、操業を目指す方への経営支援、地域の交流と賑わいを創る拠点として、2022 年 7 月に須坂市が地域創生交付金を活用し、指定管理制度による管理運営を開始、同 9 月にオープンした施設です。飲食や物販のテスト出店が可能であり、経営アドバイザーによる運営のサポートも受けられます。また創業支援セミナーを定期開催しており、金融機関や地域の事業者と連携したイベントの開催に加え、個別での創業相談や開業への準備(資金調達・空き家物件の紹介等)など、専門スタッフによるサポート(無料)も行っています。地域の賑わいに繋がるイベント開催のための施設も併設しており、利用料金は須坂市の施設利用料金に準じてリーズナブルとなっています。

「賑わい創出拠点やまじゅう」の立ち上げには『市役所のキーマン』の存在が大きく関わっていると感じました。「まちの声を形にするため、縁の下の力持ちでありたい。」と話される寺沢課長は地域を隈なく歩き、地域の顔であり、地主情報の宝庫となっておられ、潜在的空き家の状態から「やまじゅう」に情報共有をされています。重要伝統的建造物保存地区選定の担当者でもあり、「やまじゅう」から開業希望者情報も逐一共有していると伺いました。また、空き家めぐりの際はアテンダーとして毎回案内をされるということであり、地域の信用は市の職員の重要な仕事であると認識するところです。民間事業者の君島氏と市役所職員の寺沢課長の存在が空き家を活用した新しいまちづくりを進めています。大町市でも行政と民間が共創のまちづくりに取り組むことを強く願います。

(大竹 真千子)

須坂市は蔵の残る住居や店舗などの歴史的建造物が多く残る街として、その活用を推進しており、やまじゅうさんは、須坂市より公共施設の管理運営業務の指定管理を受け、開業を目指すプレイヤーの育成や伴走支援をされていました。やまじゅうの君島社長は若干 36 歳で、長野県内で 6 店舗の飲食店経営と指定管理を1施設運営されていた。ご本人の異色の経歴から、各店舗での特徴的な動きについてお話を伺う中で、税理士ではないため、開業するプレイヤーに確実とっていい助言というのはできないとおっしゃっていたが、相談のあった方々の開業後の伴走支援をする中で、現在経営する店舗での異色の組み合わせで当たった経験や、コンサルティングの状況を生かしたアドバイスをされているようで、開業後の支援という形としては、心強い存在なのだと感じた。創業・起業、開業において、最終的な責任は経営者にあるものの、初めての人に伴走できる人材がいることは羨ましく、且つこういった人材をどのように確保するかは難しさを感じた。やまじゅうの動きの中で、当市に持ち帰ることが可能であると感じた点は、チャレンジショップの運営、空き施設(住居・店舗)のマッチングについては当市でも考えるべき点だと感じた。また、君島社長のような人材が見つからないのであれば、行政、金融機関、創業・起業支援アドバイザーの各業務の隙間をどのように埋めるかを考える必要があると感じた。

(二條 孝夫)

須坂市の指定管理施設創業支援拠点「やまじゅう」の視察を行った。

須坂市は中心市街地への創業支援事業を行うために、ひとつの民間事業者指定管理として支援事業を任せただけに非常に驚かされた。とかく市担当課や商工会議所などが多忙極める仕事の中で起業、創業支援対策をしているのが常であるが、ひとつの事業者指定管理に任せただけによって、事業を起こしたい人の募集、相談、起業場所、起業職種の市場調査、製品政策のための手助け(オープンキッチン開設)資金繰り、事業を起こした後のアドバイス手助けが容易になり、いわゆるワンストップで起業者支援を行うことが出来る。ここで特記したいことは、地元の金融機関も参加していることだ。現に視察時には融資担当銀行員も来て頂いて、説明をしていた。創業のための資金に関する情報は地元銀行が一番知っている。そのノウハウを使うことは今後最も重要なことだと感じた。

また指定管理を受けている合同会社 U.I.international 代表社員 君島登茂樹氏は須坂市ばかりでなく北信を中心に飲食業を創業している。様々な創業の苦難を経験していることからそのノウハウは素晴らしいものがあつた。地域を何とかしたいという情熱の塊みみたいな人で様々な金融機関との信頼を受けている。この人と須坂市役所の商工関係者の情熱とが一致し「まるじゅう」が誕生した。やはり最後はやる人の熱量の高さが大事だと感じた。現在起業支援相談者47名、うち6件が創業、5件が開業予定であると説明を受けた。ほとんどが須坂市の中心市街地の中での創業である。中心市街地の空き家は100件、「やまじゅう」で把握している。もちろん須坂市職員との連携でこのような数字を出しているが、民間のその道のエキスパートと市職員の専任育成が大事と感じた。

(中村 直人)

当市でも若い移住者が起業を目指す例が近年ある。女性や若者の直近 3 年での企業数は8、相談中の件数は 50 弱ということで、敷居を下げた起業相談窓口は有効だと思う。伴奏型支援ということで、起業時だけではなく、創業後の不安な次期を支える仕組みがあることが重要だと感じた。「ビジネスプランとして成り立たないような提案があった場合はどうするか？」とお聞きすると、「精一杯アドバイスする中で、私のほうが熱量があるので、中途半端な取り組みしかない方は離れていく」という答えがあり、窓口になる方のモチベーションの高さを感じた。市、委託事業者、銀行と、チームで取り組むことの大事さを感じた。82 銀行さんの、「本来は銀行としても、地域の起業家を育てるような伴奏型のサービスを提供していきたいのだが、私たちも市も、実際には事業の経験が無く、現場を知っている方と一緒にやっているからこそ可能なサービスである」という発言が印象に残った。

(西澤 和保)

行政・支援団体・金融機関がそれぞれの役割をもって、各機関と連携して起業支援に取り組むことで、より具体的に、また、持続可能な方向性を導く体制は大いに評価できる。

補助制度においても、町並みを保存する文化庁の補助制度を活用し、空き家等のオーナー(家主)へのメリットが生ずることは、貸し手側の立場においても維持管理と収益などの面から恩恵を受けられることも有効と思われる。

いずれにせよ、新規起業を希望する方への支援事業をマッチングさせるキーマンの存在が非常に大きい。

長野県小諸市:①小諸市のMaaS(Mobility as a Service)の社会実験 ②高野不動産のおしゃれ田舎プロジェクト について

